

カーボンニュートラル推進室の取組

(1) カーボンニュートラル推進室の経緯と改組

カーボンニュートラルに関する取組は、単純に考えれば、温室効果ガスを排出する活動を縮小していくことにあります。しかし、それは一方で経済活動の縮小にもつながりかねないため、実際には、脱炭素化と社会・経済活動の維持・発展を両立させるための多様かつ複雑な取組が求められています。大学においても、研究、教育、施設運用、地域連携、産学官連携など、さまざまな部署がそれぞれの立場からカーボンニュートラルに取り組んでいます。

東海国立大学機構は、社会の公共財、すなわちグローバル・コモンズおよびリージョナル・コモンズとして、地域・社会・人類課題への貢献を目指しています。特に、岐阜大学と名古屋大学のシナジーを最大限に発揮することにより、カーボンニュートラルの達成に向けた課題に総合的に取り組む組織として、大きな期待が寄せられています。東海国立大学機構は、東海・信州 国立大学等連携プラットフォーム「C²-FRONTS」(p.7参照)を構築し、参加大学の強み・特色を生かした連携により機能強化を図るとともに、産業界、自治体、教育界等と連携しながら、東海・信州地域全体の発展に貢献していきます。東海国立大学機構においては、2021年11月に「カーボンニュートラル推進室」が設置されました。同推進室は、機構内のさまざまな部局に所属するカーボンニュートラル推進に関わる研究者のコンソーシアムとして、C²-FRONTSのカーボンニュートラルタスクフォース活動の中核を担ってきました。また、機構内では、これまでもカーボンニュートラル推進に関する多様な活動が展開されてきました。

その一方で、2050年のカーボンニュートラル達成に向けては、継続的かつ組織的な取組が不可欠です。さらに近年では、ネイチャーポジティブやサーキュラーエコノミーなど、気候変動対策や資源循環をより広い視点から捉える取組の重要性も増えています。しかし、これまでの活動では、カーボンニュートラル推進と、自然共生や資源循環に関する研究

活動との連携が必ずしも十分に図られてきたとはいえません。また、C²-FRONTS などを通じたアカデミア間の広域連携や、産学官連携の推進についても、横断的な推進機能をさらに強化していくことが課題となっていました。

このような状況を踏まえ、東海国立大学機構カーボンニュートラル推進室は、2026年11月より「カーボンニュートラル推進統括室」へと改組します。本改組は、機構内で個別に進められてきた多様な取組を、東海国立大学機構としての組織的な取組へと発展させることを目的としています。

カーボンニュートラルの実現は、一つの研究分野や一つの組織だけで達成できるものではありません。自然共生、資源循環、エネルギー、産業、地域社会など、多様な分野を結び付けながら、長期的かつ持続的に取り組む必要があります。カーボンニュートラル推進統括室は、東海国立大学機構におけるこれらの取組を束ね、学内外の連携をさらに発展させることにより、2050年のカーボンニュートラル達成に貢献していきます。

(2) 第3回カーボンニュートラル共創シンポジウムを開催

C²-FRONTSの取組の一環として、一般社団法人中部経済連合会との共同主催により、第3回カーボンニュートラル共創シンポジウム「ESG経営の実現と水素利用の加速・定着」が2025年11月10日に名古屋大学坂田・平田ホールおよび野依記念学術交流館において開催されました。

C²-FRONTS参加大学関係者や中部経済連合会会員企業関係者らを中心に132名が来場したほか、オンラインで169人が参加し、第1部では石川知子名古屋大学国際開発研究科教授による「低炭素水素事業と市民社会：気候変動・エネルギー転換関連紛争からの教訓」をテーマに基調講演が行われました。

また、「グリーン水素(誘導品)での経済合理性と低LC-CFPの両立の可能性」と題して、瀬戸山

亨三菱ケミカル株式会社エグゼクティブフェロー・iPEACE223株式会社CTOから、「水素社会の実現に向けた愛知県の取組」と題して、都筑秀典愛知県経済産業局水素社会・モビリティ推進監から、「カーボンニュートラルと企業成長」と題して、眞崎護株式会社三菱UFJ銀行サステナブルビジネス部企画開発グループ調査役からそれぞれ講演が行われ、その後、則永行庸名古屋大学未来社会創造機構脱炭素社会創造センター長・教授がモデレーターとなり、基調講演・講演を行っていただいた登壇者にパネリストとなつていただき、水素社会実現について産学官金の立場よりパネルディスカッションが



パネルディスカッションでは産学官金それぞれの立場から活発な意見交換が行われた

行われました。

シンポジウムでは、ポスターセッションおよび情報交換会も行われ、C²-FRONTS参加大学の学生を含めた研究シーズポスターの前では、教員および学生と企業関係者による活発な情報交換が行われました。

最後に松尾清一C²-FRONTS代表（東海国立大学機構長）よりシンポジウムの総括として、成し遂げるまでやり続けることが大切、中部・東海地域がサステナブルに発展していくためにも、今回のようなつながりを最大限に活用していただきたいと締めの挨拶が行われました。



シンポジウム閉会の挨拶を行う松尾C²-FRONTS代表（東海国立大学機構長）

東海・信州地域の持続的発展に向けて連携する枠組 東海・信州 国立大学等連携プラットフォーム(C²-FRONTS)

地域全体の持続的な発展に貢献しつつ、大学群としての国際競争力を高めることができるよう、東海・信州の8国立大学法人9大学および6国立高等専門学校が連携し、さまざまな課題や社会からの要請に柔軟に対応できるようプラットフォームを構築しています。

連携プラットフォームがひらく可能性

国立大学のミッションは、持続可能社会の実現のために、地域や人類課題の解決に貢献することです。今後も東海・信州地域が繁栄を続けていくためには、大学がこの地域の魅力を活かしつつ、多様な課題の解決のために地域を牽引していく必要があります。

C²-FRONTSは、各大学が強みや特色を発揮し、地域全体でまとまって連携することが重要と考えます。産業界・自治体・教育界でゆるやかにつながりながら、研究・産業の連携、教育・学生交流面での連携、国際交流・留学生の受け入れなどでの連携、大学運営に関する共通基盤の整備などを中心に情報交換と討議を行い、諸課題の解決と地域全体の人材・資産・資金の好循環を目指しています。

▶ 東海・信州 国立大学等連携プラットフォーム(C²-FRONTS)
<https://www.thers.ac.jp/support/c2-fronts/index.html>



▶ カーボンニュートラル推進室
https://www.thers.ac.jp/about/org/carbon_neutrality/carbon_neutrality.html

